

貞山運河再生・復興ビジョン

基本方針

人と自然と歴史が調和した、人々が集う魅力的な沿岸地域の復興

自然災害に対して粘り強い、安全・安心な沿岸地域の再生

【4つの基本目標】

- ① 地域にとって誇りある歴史的な運河群としての再生
- ② 自然災害に対して粘り強く強靱な沿岸地域の構築
- ③ 自然環境と調和し共生できる、運河周辺環境の保全・再生の推進
- ④ 継続的な地域間の連携と、未来に向けて発展できる社会環境の構築

10の主要施策と推進体制

【基本目標1】

- 運河群にふさわしい景観の復元・創出
- 運河群と調和したまちづくりや施設整備の展開
- 歴史的な遺構の保全と復元

【基本目標2】

- 計画を超える災害に対して粘り強い地域社会の構築
- 多重防御による総合的な防災力の強化

推進体制

【基本目標3】

- 自然と共生したまちづくりや施設整備の展開
- 運河群にふさわしい水質への改善

【基本目標4】

- 沿岸地域の利活用発展を支える交通ネットワークの整備
- 未来に向けて発展できる社会環境の構築
- 国内外との“絆”の強化と、“共感と参加”の拡大

貞山運河再生・復興推進会議

【期別の目標】

- 短期：被災した運河群および沿岸地域の一日も早い復旧，復興理念の共有化と参加
- 中期：運河群および沿岸地域における“集いの場”の再生と，広域的な連携の拡大
- 長期：運河群の歴史を未来へと繋ぐ，100年先を見据えたビジョンの発展

貞山運河の再生と復興に向けた取組み状況 平成29年8月現在

宮城県

～貞山運河とは～
貞山運河(木曳堀、新堀、御船入堀)、東名運河、北上運河は、全長約49kmにわたり仙台湾沿岸を繋ぐ、日本一の運河群です。
古くは舟運を目的として、約400年前、仙台藩主伊達政宗の命により建設が始まったとされる運河です。

シンボルツリーを植樹

歴史ある第1代御船石門(船橋)に、高木重隆様2本を寄贈いただき、地元の方々とご披露目合(12/23.5月)を開催。

NPOによるカヌー体験

NPO法人によるカヌー体験を定期的に開催しており、市内にもとり、盛り・盛り、子供から大人まで幅広い方が参加し、運河を活用している。

明治期の釜開門跡が出土

釜開門の災害発掘事業において、工事に着手したところ、明治期に造られた木製釜開門の遺構が出土。有識者からの意見をいただきながら、遺構の保存等を実施。

覆土の実施

自然環境(水際の植生回復)や景観への配慮し覆土を実施。

矢野浜緑地との連携

運河と隣接する両浜緑地と連携し、緑地と運河の横断連携性の確保

稲井石での復旧

東松島市で計画している「運河公園」や「農業遺構」の施設整備を踏まえ、復旧の稲井石での復旧を実施。

野蒜築港跡橋台の保全

橋台跡にかららないよう、堤防位置を決定。

明治初期に行われた日本初の近代築港の建設に伴い設置された橋台(文化財)を保全するため、橋台に堤防がからないように、堤防位置を決定し、文化財を保全。

桜植樹会を開催

東日本大震災からの復興の象徴、津波防災意識の継承を目的として、運河沿いの貞山公園に官民連携で桜植樹会を実施。(12/28.3月)

既存石積み崖岸の復元

多賀城市の歴史的風致維持向上計画に位置づけられている、中の島(赤松)の長根運河を、粘り強い堤防構造を構築しつつ、既存石積み崖岸を復元。

サイクリングロードの復旧

運河遺跡は震災前からサイクリングロードとして活用されており、仮設復旧後もサイクリングロードとして活用

仙台市海岸公園との連携

海岸公園復興基本計画(仙台市)より

かわまちづくりとの連携

多賀市陸上地区において、運河も含めた「かわまちづくり」の検討が進められている。陸上緑地中と名取川を結ぶ、運河を結ぶ遊覧船の取組を計画

既存松並木の保全

貞山運河を代表する美しい松並木を保全するため、堤防構造の変更。

桜植樹会を開催

東日本大震災からの復興の象徴、津波防災意識の継承を目的として、運河沿いの岩沼海岸緑地に官民連携で桜植樹会を実施。(12/26.3.3)

運河や河川の復旧状況は宮城県河川HPでご覧いただけます。

宮城県 河川課